



東大和市 橋梁長寿命化修繕計画（改定）

1. 橋梁長寿命化修繕計画の改定

東大和市が管理する橋梁は48橋、横断歩道橋は1橋あります。（令和5年3月時点）

最も古い橋梁は建設後91年が経過しており、橋梁の老朽化に伴い、補修や架け替えの時期を迎え、多額の費用が必要となります。このような費用を抑えるため、東大和市は平成26年度に「東大和市橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、補修工事を進めてきました。現在、初回の計画策定から8年が経過し、近年、補修工法や補修材料、橋梁点検の技術が進歩していることから、新技術を積極的に活用できるよう、計画を改定しました。

【補修前】



【補修後】



奈良橋（舗装、フェンス）

宮前二の橋（鉄筋露出）
橋梁修繕の事例（施工前後の比較）

上砂二の橋（舗装）

2. 補修や点検の新技術とは…

補修工法や補修材料、橋梁点検の新技術とは、「NETIS（新技術情報提供システム）」や「点検支援技術性能カタログ」などに記載された国土交通省などの性能評価の審査を合格した技術です。

東大和市では、次回の橋梁点検で、AIによる画像診断技術を活用し、点検の効率化、省力化を行い、点検費用の縮減を目指します。また、新工法、新材料を積極的に活用し、補修費用の縮減を目指します。

損傷診断結果

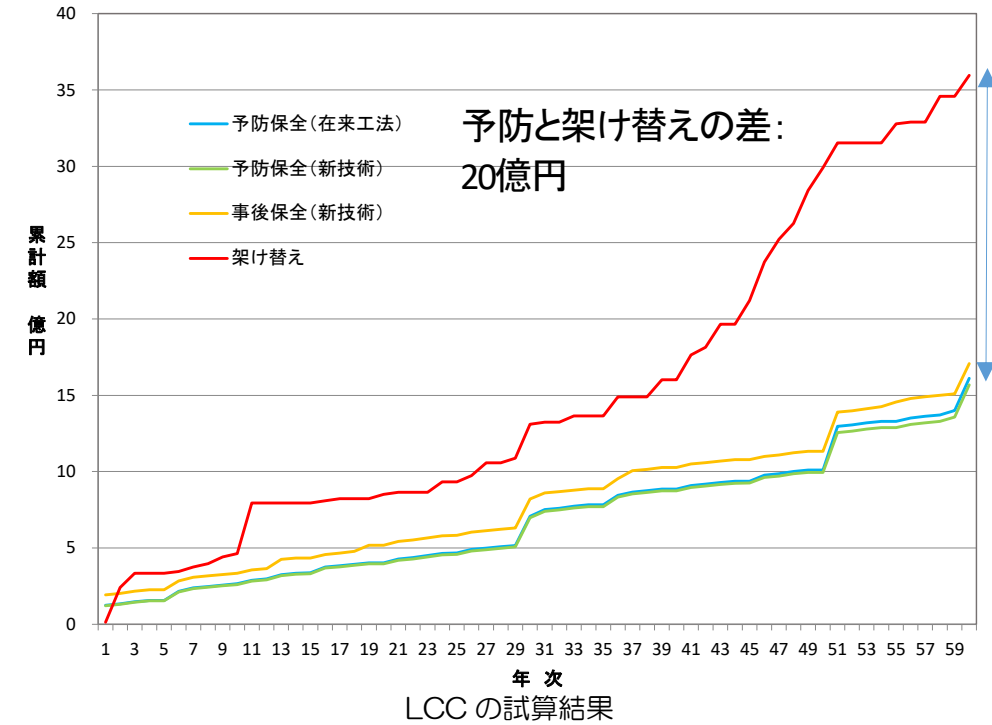


漏水・遊離石灰の「d」と自動で評価

3. ライフサイクルコストの比較

計画的に修繕を行うことで、橋の架け替えを回避することができます。また、予防的な修繕を行うことで、これまでの対症的な修繕に比べ費用が縮減できます。

今後60年間を対象にしたライフサイクルコスト（LCC）の試算では、新技術を活用しながら予防的な修繕を行うことで、架け替えに比べ、約20億円の費用が縮減できます。



4. 今後の予定

➤ 新技術を取り入れた長寿命化修繕計画に基づき、国や都の補助金を活用して、補修工事を行います。

修繕計画の概要

年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	合計
修繕する橋梁数	点検	3	3	3	3	点検	2	3	3	3	点検	3	3	3	3	点検	3	1	3	3	点検	1	3	49

➤ 5年に1度定期点検を行い、必要に応じて修繕計画を見直していきます。

5. ご意見を頂いた学識経験者および計画策定の担当部署

➤ 計画の策定には、溝渕 利明教授（法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科）に助言を頂いております。

➤ 計画策定の担当部署は、東大和市 まちづくり部 土木公園課です。

（東京都東大和市中心3丁目930番地 TEL042-563-2111 内線1214）

